

大塚倉庫、医薬品物流の品質向上をデジタルの力で推進 —カメラと生成AIを活用した侵入検知システムを開発—

大塚グループの物流を担う大塚倉庫株式会社（大阪市港区、代表取締役社長・濱長一彦、以下「大塚倉庫」）は、WMS（倉庫管理システム）を刷新するほかドライバー向けアプリの新規開発、テクノロジーを駆使し全国の物流現場を東京本部（東京都中央区）にて一元管理する仕組み作りに着手いたしました。今年4月よりトライアルを開始し、全てのリリースは2026年春を予定しております。

当社は、従来の「経験と勘」に頼らない高効率な倉庫・輸送業務オペレーションをデジタルの力で実現することを目指しており、今回の取組みは物流品質の向上（特に医薬品カテゴリーにおける）および持続可能な物流網構築のための投資となります。

特に注力するのが全国の物流現場を東京本部にてリアルタイムに可視化し一元管理する仕組み作りです。可視化の一例として、新たに「カメラと生成AIを活用した侵入検知システム」を株式会社ソラコム（東京都港区、代表取締役社長・玉川憲、以下「ソラコム」）と共同開発を行います（※1）。従来型の監視カメラを進化させ、カメラの映像を生成AIを用いて常時分析し、不審者などの異常時には自動的に通知するものです。



↑ 実証実験時の倉庫内における監視カメラ画像

他にもカメラ画像を活用し、出荷作業をAI解析することで出荷ミスなどを判定、防止する研究開発も行う予定です。

物流現場の可視化を進め、当社の企業理念である'Otsuka-people creating new products for better health worldwide'のもと、サプライチェーン全体の最適化や持続可能な物流の実現につなげてまいります。

(※1) 同システムを開発するにあたり、ソラコム社のクラウド型カメラサービス「ソラカメ」と、生成AIを使ったアプリケーションをローコードで開発できるサービス「SORACOM Flux（ソラコムフラックス）」を採用いたしました。「SORACOM Flux」採用の決め手は、自分達の手でスピーディに現場が欲しいシステムを開発できること、そして不審者検出の仕組みとして生成AIによる手法を用いていることに魅力を感じたためです。今後は、不審者検知だけでなく、物流および倉庫の品質改善につながる仕組みに応用していきたいと考えています。

【会社概要】

大塚倉庫株式会社（Otsuka Warehouse Co.,Ltd.）

設 立 : 1961年11月22日
資 本 金 : 8億円
代 表 者 : 代表取締役社長 濱長 一彦（はまなが かずひこ）
本 社 所 在 地 : 大阪市港区石田1丁目3番16号
事 業 内 容 : 倉庫業および運送事業

株式会社ソラコム（SORACOM, INC.）

設 立 : 2014年11月10日
資 本 金 : 75億37百万円
代 表 者 : 代表取締役社長 CEO 玉川 憲（たまがわ けん）
本 社 所 在 地 : 東京都港区元赤坂1丁目5番12号 住友不動産元赤坂ビル9階
事 業 内 容 : IoT通信を軸に、IoTを活用するために必要となるアプリケーションやデバイスなどをワンストップで提供

この件に関するお問合せは、下記にお願いします。

大塚倉庫株式会社 総務人事部

〒104-0053 東京都中央区晴海 4-7-4 CROSS DOCK HARUMI 2F

TEL : 03-5843-2010

Email : owh_pr@otsuka.jp

URL : <https://www.otsukawh.co.jp/>